

令和2年第7回臨時会の開会にあたり、私の市政運営に関する基本方針と所信の一端を申し上げ、皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

このたび志摩市長に就任しました、橋爪政吉です。

選挙戦で訴えたスローガンである「チェンジ」をモットーに、市民の皆さまをはじめ多くの方々からの温かいご支援とお力添えに応え、新しい志摩市づくりを力強く推し進めていくために、皆さまと一緒に成果を上げる良い仕事をしていきたいと思っています。

我が国の経済状況については、株式会社 日本総合研究所が11月に発表した「日本経済展望」では、外需の持ち直しが続く一方、新型コロナウイルス感染者数の高止まりや自粛ムードがサービス消費の回復の重石となり、雇用環境は悪化し、家計部門の回復は限定的であるとされています。また、本市にも影響するインバウンド需要においては、回復の見通しは、ほぼゼロとされています。国際民間航空機関は、海外の新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、国際旅客数の見通しを下方修正し、2021年3月においても、新型コロナ流行前の3割程度の回復にとどまると想定しています。

このような大変厳しい情勢の中ではございますが、本市における財政は、平成26年9月に策定された「第2次財政健全化アクションプログラム」に基づき、「施設の統廃合」、「事務事業の見直し」、「補助金の見直し」、「歳入の見直し」などが進められ、今年度からは、新たに見直されたプログラムにおいて、財政健全化を図っているところでございます。このプログラムを踏まえながらも、長期化する見通しであるコロナ禍において、市民生活への影響を熟考し、民間手法の活用を含め、様々な方法を探りながらの財源確保、財政の健全化に努めてまいります。

それでは、今後4年間の私の市政運営につきまして、申し述べます。

今年に入り、新型コロナウイルス感染症という新たな脅威の中で、これまでとは違う新たな価値観が国内外で生まれ、自然と人が共に生きてきたこの志摩市も、多くの人々により、新たな価値を見出されています。

新たな価値観というのは地域の宝です。

一人ひとりが地域の宝に気付き、共有し生かすことで、さらに魅力ある場所となります。そこには人が集い、新しい豊かな発想が生まれ、実践していくことで、地域が磨き上げられ、市民の皆さまがより輝くこととなります。そのような良い循環となる、持続可能なまちづくりは、志摩市を愛する次世代を育むことにもつながり、世代の循環も生まれてきます。

志摩市に住む人たちが自慢したくなるまちづくりに、今まさに「チェンジ」し、志摩市のこれまでの魅力も新たな魅力も、そして課題もしっかりと自覚し、責任を果たしながら、様々な魅力を生かしていかなくてはなりません。私はその先頭に立ち、子や孫の世代へ「自慢のまち」という贈り物ができるように、責任世代として歩みを進めていきます。

この歩みを一步一步力強いものとするために、特に選挙戦で訴えました、重点施策の「5つのチェンジ」について申し述べます。

まず1点目に「**価値観のチェンジ**」です。

今年には新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭と仕事のバランスや、地方で暮らすことの利点、自然を感じながら、テクノロジーを活用することなど、人々が改めて気付き始めたことがたくさんあります。人間が人間らしく生きるために必要な心の豊かさを、ここ志摩市から全国に発信するチャンスです。市民の幸福度アップを目指し、新たな視点も含め、様々な施策を推進し、心の豊かさを

大事にする志摩市のファンづくり戦略を行います。

2点目に「**安心のチェンジ**」です。

コロナ禍で人々の孤独感が高まっている今だからこそ、血の通った行政サービスが強く求められています。心の豊かさの大前提にあるのは、安心して暮らせる社会です。このことから、志摩市は、この地域のすべての人が自分らしく、いきいきと暮らせるまちであるべきです。これを実現するために、主に、新型コロナウイルス感染症対策を含めた危機管理体制の強化、医療体制の拡充やIT活用による医療介護現場の負担軽減、また、ひとり暮らし高齢者の把握と生活支援、防災防犯面からの空家対策、自治会と行政の連携の強化などを行ってまいります。

3点目は「**産業のチェンジ**」です。

昭和から平成にかけて、地方の私たちは都会に憧れを持って、ビジネスを展開してきました。しかし、今では地方にこそ価値があると考えer人が増えています。このまちでしか手に入らないモノやサービスを客観的な視点で磨き上げ、世界一の志摩市を目指します。志摩市は、昔から海の恩恵を受け自然と共存してきました。しかし、近年、海の環境が急速に変化し、豊かな海が失われつつあります。この現状を少しでも改善するには、豊かな海を守る事業を、当事者の皆さまや有識者の皆さまと立案実施していきます。そして、志摩市を支える様々な産業においても、継続的な支援体制の強化を図ります。また、コロナ禍で広まりつつある自然体験などの新しい観光スタイルの促進や、SDGsと環境保全に基づく産業の支援や企業誘致支援を実施します。さらには、多目的グラウンドやスポーツ海岸の整備、スポーツ合宿の誘致など、市内産業を活性化するための事業を行います。

4点目は、「**教育のチェンジ**」です。

志摩市は、古くから自然と共存しながら、心豊かな暮らしを実践してきました。その文化やプライドを受け継ぎ、自然環境を守り、それらを継承していく人材を育むことは、私たちの責務です。志摩市を自慢していただき、未来を担う世代を地域全体でしっかりと支え、応援するまちづくりを今すぐ始めなければなりません。そのためには、子どもたちが毎日食べる給食においては、原材料をできるだけ志摩市産となるような志摩給食の実施を目指してまいります。そして、インターネットやSNSを正しく使いこなすための講習を実施する事業を行います。また、空き施設などを活用したプロ技能士学校の開設を目指します。さらには、市内にある2つの県立高校の活性化を図る事業に取り組んでまいります。

5点目は、「**行政のチェンジ**」です。

行政に携わる者の大事な仕事は、まちを愛し、このまちの未来を語り、地域の人たちの力を信じて一緒に汗を流すことです。まちを愛する気持ちが結集する開かれた役所を目指して、市民に寄り添う優しさと、古い習慣を変える勇敢さを持った職員たちが伸びやかに能力を発揮できる場をつくります。そのために、民間企業や研究機関との連携を深める開かれた市役所のあり方を目指します。そして民間の経営手法を取り入れながら、職員の自由な発想を生かす柔軟な市役所運営を行います。また、市内各地区の特性を十分に把握し、それを生かすための支所の役割や機能拡充についての検討も行ってまいります。

以上が、重点施策としての「5つのチェンジ」でございますが、志摩市が20年目を迎えるこの4年間は、これまでとは違いより多くの成果を求められることとなります。このため、各事業を検証しながら、必要・不必要な事業を精査し、並行して行政のスリム化についての検証も行い、市民にとってわかりやすく、よ

り近い場所で、新しい志摩市の再建を目指してまいります。このことを実現するために、市民の皆さま並びに議員の皆さま、また、職員一人ひとりの力が必要です。志摩市に関わる全ての皆さまで、共に志摩市のこれからをしっかりと考え、実行していくために、ご支援とご協力をお願い申し上げまして、私の市政運営の基本方針と所信表明といたします。

令和2年11月20日

志摩市長 橋 爪 政 吉